

令和5年度 東久留米市立 第六小学校 学校経営推進計画

学校教育目標	○考える子 ○助け合う子 ○元気な子	【目指す教育】 『次代に生きる子供を育てる』	教育 ビジ ョン	【目指す学校像】	○明日の登校を楽しみにする子供にあふれる学校 ○明日の出勤を楽しみにする教職員にあふれる学校 ○来校することを楽しみにする保護者・地域の方にあふれる学校
				【目指す児童・生徒像】	人間味あふれ、自ら考え、自ら学ぶ子供
				【目指す教師像】	「主体的・対話的で深い学び」のできる教師
前年度までの学校経営上の成果と課題			【成果】◇落ち着いた温かい支持的風土の学年・学級集団の形成 ◇児童の基本的な学習習慣・学習規律、規範意識の定着 ◇よりよい学校生活を目指して児童が主体的に行動しようとする意識の向上 ◇地域の人材や環境を生かした体験的活動の推進 ◇校内研究の成果を生かした授業 【課題】◇基礎学力の定着 ◇教科横断的な学習指導 ◇特別支援教育、個に応じた指導の推進 ◇学校2020レガシーの推進 ◇効果的な組織運営		

東久留米市第2次教育振興基本計画				中期経営目標	短期経営目標	評価指標・評価基準		評価内容		
No.	四つの柱	基本施策	今年度学校で重点を置く「具体的施策」	(令和4年度までの3年間)	(1年間)	取組指標	成果指標	児童	保護者	教職員
1	I 健全育成	規範意識や他人への思いやりなど豊かな心を育む教育の推進	人権教育の推進	市教育委員会人権行動指針に基づき、自他を大切に、差別や偏見を許さない学校づくり。	全教育活動を通して、互いのよさや立場を尊重し合える心育が育つよう努め、集団での自分の立場と責任を自覚し、互いに協力して行動しようとする態度を育てる。	・学校全体における言語環境の整備 ・学級活動などの実践的活動 ・学校行事等の学年の枠を超えた交流 ・人権教育の研修等とおした、教職員の人権感覚の見直し	「学校が楽しい」「暴力や相手を傷つけることはしていない」と答えた児童 A: 3.5以上 B: 3.2以上 C: 3.0以上 D: 3.0未満	・学校は楽しい ・暴力や相手を傷つけることはしていない。	・児童一人一人の良さと成長を認め、伸ばす教育を行っている。	・児童一人一人の良さと成長を認め、伸ばす教育を行っている。 ・よびすて・暴力・暴言を許さない指導を行っている。
2	I 健全育成	規範意識や他人への思いやりなど豊かな心を育む教育の推進	規範意識と豊かな人間関係を育む教育	児童が互いに認め合い、児童と教師が信頼し合う豊かな人間関係を育み、規範意識や思いやりの心を育てる。	全教職員の共通理解のもと、「六小6つの『あ』」の指導を徹底し、基本的習慣や規範意識を育てる	・児童一人一人が認められる学校、学級づくり ・道徳科授業の充実 ・「六小6つの『あ』」の指導の徹底	「相手の気持ちを考え、助け合って生活している」「六小6つの『あ』を守っている」と答えた児童 A: 3.5以上 B: 3.2以上 C: 3.0以上 D: 3.0未満	・相手の気持ちを考え、助け合って生活している。 ・六小6つの『あ』を守っている。	・集団における規範意識や思いやりの心などを育て、伸ばす教育を行っている。	・児童一人一人の良さと成長を認め、伸ばす教育を行っている。 ・安全指導や避難訓練等が実態に即して計画的に実施されている。 ・六小「6つのあ」を重点指導している。
3	I 健全育成	いじめ問題への対応	いじめ防止対策推進基本方針に基づいた取り組みの推進	いじめ対策防止委員会によるいじめの実態把握と早期発見・対応を組織的に、いじめ防止のために自ら行動できる児童を育てる。	自尊感情や自己肯定感を高められる、児童一人一人が認められ、生かされる場活動の場、機会の設定、互いのよさを認め合う学級づくりを行う	・児童一人一人が認められる学校、学級づくり ・児童アンケートの実施 ・児童会を中心にいじめ防止活動の展開 ・SCによる5年全員面接 ・教職員の週1回の情報共有	「学校はいじめがなく安心できる」「先生は、良いところや頑張ったところを認めてくれる」と答えた児童 A: 3.5以上 B: 3.2以上 C: 3.0以上 D: 3.0未満	・学校はいじめがなく安心できる。 ・先生は、良いところや頑張ったところを認めてくれる。	・児童一人一人が互いの良さと違いを認める教育を行っている。	・児童には、道徳的心情や判断力、道徳の実践力が育っている。 ・児童一人一人の良さと成長を認め、伸ばす教育を行っている。
4	II 学力向上	確かな学力の育成	基礎的・基本的な学力の定着と学ぶ意欲の向上	学習活動や授業展開を工夫し、基礎的・基本的な知識および技能の確実な定着を図る。	「分かる、できる、楽しい授業、使える、つくる能力を育む授業」の実施	・全教員による相互授業参観の実施(年3回) ・授業改善推進プランの活用 ・算数習熟度別指導の充実 ・週3回(国語2回、算数1回)の朝学習実施、適切な評価 ・放課後タイムの実施	「すすんで考えたり発表したりできた」「友達と話し合ったり、学び合ったりすることができた」と答えた児童 A: 3.5以上 B: 3.2以上 C: 3.0以上 D: 3.0未満	・先生は、勉強を分かりやすく教えてくれる。 ・すすんで考えたり発表したりできた。 ・友達と話し合ったり、学び合ったりすることができた。 ・問題を解決するために、自分の考えをもつことができた。 ・自分の考えを筋道立てて、説明することができた。	・指導法や教材を工夫し、児童に分かりやすい授業を行っている。 ・指導法や教材を工夫し、論理的思考、創造性を育成している。 ・児童に基礎的・基本的な学力を身に付けさせている。	・年3回の相互授業参観において、自分自身の指導のよさをみつけるとともに、課題について改善を図ろうとすることができた。 ・週案に基づき、ねらいを明確にした授業を展開している。(ねらいの提示、各教科等の特性に応じた学習過程が見える板書の工夫) ・朝学習、放課後タイム等を活用し、基礎・基本の定着が見られた。 ・「考える、調べる、書く、話す・説明する・発表する、関わる」必然性のある授業を仕掛けることができた。 ・児童の実態を把握し、個に応じた指導・授業(習熟度別指導、タブレット端末の活用など)を行うことができた。
5	II 学力向上	確かな学力の育成	教員の授業改善、指導力の向上の推進	学習活動や授業展開を工夫し、自ら学び、考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力(思考力・判断力・表現力)を育成する。	「学習者の基本は学習者の学習意欲」を授業の基盤と意識し、主体的・対話的で深い学びある授業改善を図る	・ねらいを明確にした授業の実施 ・授業の流れが分かる板書づくり ・一人一台端末を活用した個に応じた学習指導 ・自己評価、相互評価の工夫	「勉強がわかる」と答えた児童 A: 3.5以上 B: 3.2以上 C: 3.0以上 D: 3.0未満	・先生は、勉強を分かりやすく教えてくれる。 ・友達と話し合ったり、学び合ったりすることができた。 ・問題を解決するために、自分の考えをもつことができた。 ・自分の考えを筋道立てて、説明することができた。	・指導法や教材を工夫し、児童に分かりやすい授業を行っている。 ・指導法や教材を工夫し、論理的思考、創造性を育成している。 ・児童に基礎的・基本的な学力を身に付けさせている。	・週案に基づき、ねらいを明確にした授業を展開している。(ねらいの提示、各教科等の特性に応じた学習過程が見える板書の工夫) ・朝学習、放課後タイム等を活用し、基礎・基本の定着が見られた。 ・「考える、調べる、書く、話す・説明する・発表する、関わる」必然性のある授業を仕掛けることができた。 ・児童の実態を把握し、個に応じた指導・授業(習熟度別指導、タブレット端末の活用など)を行うことができた。
6	II 学力向上	確かな学力の育成	ICT機器活用等による多様な指導方法の工夫	問題を主体的に取り組む態度、一人一台端末やICT機器を活用してよりよい社会を築いていこうとする態度の育成を図るとともに、教科学習の学びの定着を図る。	論理的な思考の育成を図るとともに、個に応じた学習と学習の定着をはかる授業を実施する	・一人一台端末やICT機器を活用した授業の実施 ・アンブレグドプログラミング学習の実施 ・プログラミング教育研修の実施	「問題を解決するために、自分の考えをもつことができた」「自分の考えを筋道立てて、説明することができた」と答えた児童 A: 3.5以上 B: 3.2以上 C: 3.0以上 D: 3.0未満	・先生は、勉強を分かりやすく教えてくれる。 ・友達と話し合ったり、学び合ったりすることができた。 ・問題を解決するために、自分の考えをもつことができた。 ・自分の考えを筋道立てて、説明することができた。	・指導法や教材を工夫し、児童に分かりやすい授業を行っている。 ・指導法や教材を工夫し、論理的思考、創造性を育成している。 ・児童に基礎的・基本的な学力を身に付けさせている。	・週案に基づき、ねらいを明確にした授業を展開している。(ねらいの提示、各教科等の特性に応じた学習過程が見える板書の工夫) ・朝学習、放課後タイム等を活用し、基礎・基本の定着が見られた。 ・「考える、調べる、書く、話す・説明する・発表する、関わる」必然性のある授業を仕掛けることができた。 ・児童の実態を把握し、個に応じた指導・授業(習熟度別指導、タブレット端末の活用など)を行うことができた。
7	II 学力向上	確かな学力の育成	家庭学習の積極的な展開	個々の児童の興味や関心に基づく自主的な学習を奨励して学習意欲を高め、家庭での学習習慣を身に付けさせる。	学年の発達段階に合った課題を与えるとともに、自主学習を奨励し家庭での学習習慣を育てる	・学年×10+10分の家庭学習の実施 ・「六小家庭学習の手引き」の見直しと活用	家庭で「学年×10+10分の家庭学習(宿題、自主学習)に取り組んだ」と答えた児童 A: 3.5以上 B: 3.2以上 C: 3.0以上 D: 3.0未満	・家で学年×10+10分の家庭学習(宿題、自主学習)に取り組んだ。	・家庭では、学年×10+10分の家庭学習(宿題、自主学習)に取り組み、家庭学習の習慣化を図っている。	・学年の実態に応じて、宿題の他に自主学習を通じ、自分の課題に応じた家庭学習の習慣化を図っている。
8	III 教育環境の整備	体験的な活動	地域や外部人材を生かした体験活動の充実	地域の人的、物的資源を活用した体験活動の充実を図り、地域社会の一員としての自覚と地域に対する愛情を育てる	各教科等の指導計画に基づき、地域人材や地域の特色を生かした体験活動を取り入れた効果的な授業を実施する	・保護者・地域資源を生かした授業の実施(CSの推進【実践、実証】) ・人材バンク年間指導計画の作成、活用	「学校は、地域の人材や特色を生かした活動を行っている」と答えた保護者 A: 3.5以上 B: 3.2以上 C: 3.0以上 D: 3.0未満	・保護者、地域の人材や環境、外部機関等を生かし、特色ある活動を行っている。	・保護者、地域の特色や人材、外部機関等を生かした学習活動を考え、取り入れることができた。	・保護者、地域の特色や人材、外部機関等を生かした学習活動を考え、取り入れることができた。
9	III 教育環境の整備	特別支援教育の充実	特別支援教育の充実	特別支援教育に対する理解を深め、個に応じた支援の充実、「共に生きる」仲間としての意識を育てる	特別支援校内委員会、生活指導部会を計画的に実施し、特別な支援を要する児童への個別支援の充実を図る	・UDの授業の実施 ・特別支援教育研修会の実施 ・校内委員会の充実 ・生活指導連絡会の充実 ・特別支援教室、通級、通常級教員、SC等の連携の充実	「個に応じた学校教育が行われている」と答えた保護者 A: 3.5以上 B: 3.2以上 C: 3.0以上 D: 3.0未満	・先生は、勉強を分かりやすく教えてくれる。	・児童の実態の把握に努めるとともに、配慮が必要な児童については共通理解を図り、組織として対応している。 ・校内体制が整備され校内委員会が機能している。	・児童の実態の把握に努めるとともに、組織として対応している。
10	I 健全育成	個性を認め合う教育の推進	自己肯定感・自己有用感の醸成	ダイバーシティとインクルージョンを推進し、「共に生きる」仲間としての意識を育てる	自分を知るとともに、多様性を互いに尊重し、認め合い、共に活躍・成長することができる力の育成を図る	・児童一人一人が「好きなこと、好きなもの、できること、できた」が増える指導の充実 ・相互授業参観期間の設定 ・巡回指導教員、通級指導教員、担任による、6年間を見通した理解啓発授業の実施 ・特別支援教室巡回指導教員、通級担任、学級担任の連携の充実	「1年間で「好きなこと、もの、できるようになったこと、できたこと」が1つでも増えた」と答えた児童 A: 3.5以上 B: 3.2以上 C: 3.0以上 D: 3.0未満	・1年間で「好きなこと、もの、できるようになったこと、できたこと」が1つでも増えた。 ・相手の気持ちを考え、助け合って生活している。 ・先生は、良いところや頑張ったところを認めてくれる。	・児童一人一人が互いの良さと違いを認める教育を行っている。	・児童一人一人の良さと成長を認め、伸ばす教育を行っている。 ・児童の実態の把握に努めるとともに、組織として対応している。